

第2回富山県環境審議会 生物多様性小委員会 議事概要

1 日 時 令和4年12月16日（金）午前10時～12時

2 場 所 富山県民会館302号室

3 出席者

委員等：和田委員長、遠藤委員、富永委員、有山専門員、中田専門員、柳原専門員、岡田調査員、小川調査員、間宮調査員、道井調査員、吉田調査員（欠席：石黒専門員）

県側：林生活環境文化部次長、藤本自然保護課長、牧野自然保護課主幹・課長補佐・自然環境係長、利田自然保護課野生生物係長 ほか

4 議事及び主な意見

（1）富山県生物多様性保全推進プランの改定について

（委員等）生態系として安定するためには長い期間を要するため2050年ビジョンを掲げるということだが、安定するというのは現在変化・改変しており、それを安定するのに時間がかかるというようなイメージを持ってしまう。今豊かな自然があってこれを維持していかなくてはいけない、次の世代につなげていくというような視点だと思うので安定という言葉はふさわしくないのではないか。長期的視野を持ってというような言い方がよいのではないか。

（事務局）ご意見を踏まえ修正する。

（委員等）目標3の8番目の参考指標について、新たに栽培漁業の産出額が出されているが、栽培漁業自体は水産業としては非常に重要なことだと思うが、生物多様性という観点で取り上げるのはいかがかと思う。富山湾での漁獲量とかそういったものを指標にされた方がいいのではないか。

（事務局）関係課と相談して指標を検討したい。

（委員等）今回30by30を加えていただいているので、目標1について、環境省でアライアンスを立ち上げて現在その参加団体を募られているので、県内の自治体を含めて参加団体数を今何件であるのを令和12年に向け何件にするといった目標を載せたほうが建設的でよいのではないか。

（事務局）ご意見を踏まえ盛り込んでいきたい。

（委員等）目標に掲げている参考指標が消極的な印象を受けた。例えば自然公園面積や自然環境保全地域が全て現状維持で増やすというものがない。もっと積

極的な数値目標を掲げられたらどうか。

(委員長) 最近では国立公園であっても再生エネルギー施設等の開発の案件が出てくる可能性も十分にあり、そうした現状を維持することも困難な中にあるのは現状維持というのにも積極的な意味として捉えることもできると思う。

(事務局) 自然公園面積や自然環境保全地域面積については、ある程度目標が達せられているところもあり、「現状維持」としているところだが、ご意見を踏まえ検討したい。

(委員等) 第1部の第6章に県土のランドデザインを掲げているが、2050年のランドデザインを掲げるのであれば、2030年の目標の前にあるのが分かりやすいのではないか。第4章第2節に2050年の長期目標があり、第3節に2030年の目標があり、第6章に2050年のランドデザインがあるのは、分かりにくい。

また、リーディングプロジェクトについて、施策であるのだから、第1部第5章でなく、第2部にあるべきではないのか。

(事務局) ご意見を踏まえ修正する。

(委員等) レッドリストの見直しを定期的に行うという記載もあったが、前回調査された2012年から10年が経過している。生物多様性のプランとして、現在どれくらいの多様性があるのか現実をきちんと把握する必要があるのではないか。

(事務局) レッドリストの更新については前回も委員会においてご指摘のあったところであり、当課としてもレッドリストは生物多様性のバロメーターともいえるものであるため今後検討していくこととしている。

(委員等) 目標値に温室効果ガスの削減量は入れられないか。生物多様性に温室効果ガスというのは間違いなく問題と言われている。

(委員等) 富山県はすでにカーボンニュートラル宣言を出しているのだから、それを盛り込めばよいのでは。

(事務局) ご意見を踏まえ、関係課と相談し検討したい。

(委員等) 希少な生きものの捕獲等については条例で規制できるが、生きものの生息地を守ることについては課題がある。それには地域の方が入りつつその種を守っていくことも重要で、県民の方も含めて地域生物の生息環境を守れるような情報交換、またはそれを活用してチーム体制を確保していくという取り組みが必要かと思う。

(委員等) トピック10の30by30について、環境省の方で保護地域の考え方として整理している中では、鳥獣保護区や緑の回廊、天然記念物等もあり、それら

を含めると富山県の陸域は 30%を超えていると思われる。海域について追加できるようなものがあるとしてもよいのではないかと思う。

(委員等) シカについて触れられてないが、今後間違いなく増え非常に大きな影響が出てくる。本文にシカについて記載してほしい。

(事務局) ご意見を踏まえ記載したい。

(委員等) 富山県の目指す姿のイメージマップについては、生きものの場所と種類を確認するように。

(事務局) 確認し、修正する。

(委員等) 2024 年に黒部宇奈月キャニオンルートが一般開放されるので、たくさんの方が来るようになり環境や生態系の変化が起きる。それに対応したトイレや山の施設、看板をしっかりと整備しないといけない。また、その状況を注視・観察していかなければならない。観光ルート・観光客の新たな動きに対応するため、ハード・ソフトを見直す必要がある。

(委員等) 各主体の役割のところ、行政の役割が進行管理や仲介役というようなことを記載されており、実際県でも色々なことをやっておられるが、この部分だけを見ると消極的に見える。なるべく連携して一緒にやっていくということや熱意が伝わる記載にすべき。なるべく県民や関係団体と一緒に進めていくイメージが見えるようにしてほしい。

(事務局) ご意見を踏まえ修正したい。

(委員等) 今年度末に審議会に当プランを報告して、来年度はどのようなことをするのか。前回は概要版を出されたと思うが、県の方からしっかり発信していないと、いろいろなことを書いていても誰も知らない、認知度も上がっていない。積極的にアピールしていくべき。

(事務局) ご意見を踏まえ、周知啓発を行いたい。

(委員等) 富山県内で全国初の外来生物が見つかっている。生態系特に用水や湖沼の中に、外来水草を投棄したりしないという一文を入れる或いはそのあと 16、7 行目あたりに外来水草の除去に取り組むといった文言を入れてはどうか。

また、学術団体・研究者の役割について、具体的な例として、富山県生物学会という組織がある。富山県の生物多様性を調査し、普及している団体であるため、トピックに加えてはどうか。

(事務局) ご意見を踏まえ、記載を検討したい。

(委員等) この生物多様性保全推進プランは、行政向けのものか、一般県民向けの

ものか。一般向けであれば、細かすぎると思う。
(事務局) このプランは幅広く一般の方にも向けたプランと考えている。このプラン本体とは別に概要版があり、そちらについてはより分かりやすい表現としたい。

(2) 今後のスケジュールについて

富山県生物多様性保全推進プランの改定については、素案を修正し、委員に確認いただいた上でパブリックコメントを実施することとされた。